

神戸の遺跡からみた縄文

神戸市埋蔵文化財センター歴史講演会「神戸の歴史探検」

平成23年5月21日 西岡誠司氏「縄文時代の神戸」講演資料より 要旨・図面抜粋

西日本の神戸からも 亀ヶ岡の遮光器土偶が出土した

1. 縄文時代とは 温暖化が進む気候激変を乗り切る知恵

- **土器の発明** 食生活の一大変革をもたらす大発明 煮炊きを可能にし、どんぐりなど食物の安定確保
縄文人の食事 狩猟採取といわれるが、植物5 魚・貝4 獣1 でイメージがだいぶ異なる
縄文人が土器に込めた思いが何か よく判っていない 実用から大きく変化する装飾
縄文晩期 西日本の縄文土器にはほとんど模様がない

- **石器の著しい進歩** 狩猟具の発達 気候変動に対応した小動物の増加に対応 弓矢の使用

2. 縄文人の暮らしを特徴づける不思議 まつりと祈り 埋葬・技術・土偶

1. 埋葬は屈葬が主であるが、その理由は分かっていない
2. 成年のほとんどに上あごの犬歯2本を抜く 10本以上の歯を抜いている例もある
3. 土偶の変遷 草創期からあるが、中期以降東日本で急激に増加
その表現も体部のみから顔・手足そして 様々な表現へ変化してゆく

3. 現代に生かすべき??? 縄文の暮らし 縄文がえりの勧め

1. 縄文人は現代人より健康的な暮らしであったが、医療の発達していなかったため短命
2. 自然と共生した暮らしと知恵 自然と共生した継続的な暮らし
3. 縄文人は平和的・友好的な暮らし 大きな争いのない暮らし

争いは水田耕作による定住が水争いを生んだのか 縄文人は定住地を持ちつつ移動の生活か・・・

4. 縄文のまとめ 縄文人の暮らしは 豊かであったのか……

豊かさの指標を虫歯にとると……

現代人の虫歯	約14本
現代の狩猟未開人	ほとんど0本
縄文人 早期	0本
前期遺構	3本
弥生人	4本

人骨の成長異常

江戸庶民の人骨の成長異常の方が
縄文人の成長異常よりはるかに多いという。



神戸市内の主な縄文時代の遺跡

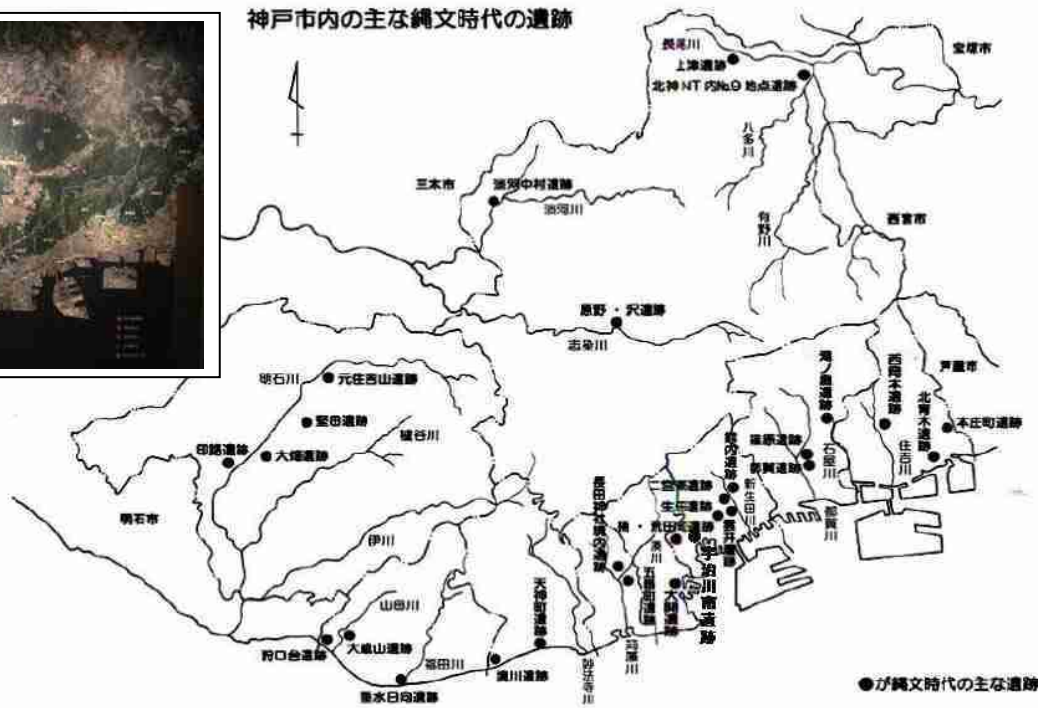


●が縄文時代の主な遺跡

- ◆ 六甲連山の麓 幾筋もの川が流れ下る扇状地には 縄文早期から縄文人の暮らしがあった
 そんな 縄文晩期の篠原遺跡から 遮光器土偶が出土した



神戸市内の主な縄文時代の遺跡



時期	主な器形	主な特徴	神戸市内の主な遺跡
草創期	深鉢のみ	丸底・尖底 出土例が少ない	滝ノ奥遺跡・天神町遺跡 有茎尖頭器のみ(土器出土例なし)
早期	深鉢のみ	尖底が多い 地域差が顕著になる 近畿・中部地方では押型文 関東地方では燃糸文	都賀遺跡・雲井遺跡・熊内遺跡 境川遺跡・狩口台遺跡 二宮東遺跡・垂水日向遺跡 西岡本遺跡(竪穴住居)
前期	深鉢・浅鉢・壺	平底が一般的になる 深鉢以外の器形が出現 波状口縁を持つものが出現	大蔵山遺跡・雲井遺跡
中期	深鉢・浅鉢・壺 (火炎土器)	様々な器形が出現 竹管やへらなどの工具も使用 立体的な造形が見られる	垂水日向遺跡・雲井遺跡 淡河中村遺跡(竪穴住居) 舞子浜遺跡・上津遺跡
後期	深鉢・浅鉢・壺 注口土器	さらに器形が多様化 磨消し縄文が普及 地域差が一時的に解消 注口土器が普及する	篠原遺跡・雲井遺跡・生田遺跡 元住吉山遺跡・原野・沢遺跡 印路遺跡・本庄町遺跡・大畑遺跡 垂水日向遺跡・堅田遺跡 宇治川南遺跡
晩期	深鉢・浅鉢・壺 注口土器・皿・埴	地域差が再び顕著になる 西日本では、器種が少なくなる 研磨土器が出現 末期には突帯文土器が出現	篠原遺跡、五番町遺跡・雲井遺跡 楠・荒田町遺跡・北青木遺跡 長田神社境内遺跡・大開遺跡 宇治川南遺跡

各時期別に見た縄文土器の主な器形と特徴・市内の主な遺跡

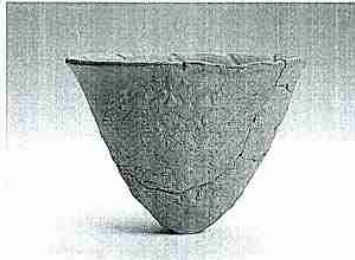
①縄文以前～旧石器時代(先土器時代)のくらし～

旧石器時代	約 35000 年前～約 13000 年前
縄文時代	草創期 約 13000 年前～約 9500 年前
	早期 約 9500 年前～約 6000 年前
	前期 約 6000 年前～約 5000 年前
	中期 約 5000 年前～約 4000 年前
	後期 約 4000 年前～約 3000 年前
	晩期 約 3000 年前～約 2500 年前
弥生時代	約 2500 年前～



旧石器時代～弥生時代の時期区分とその主な年代

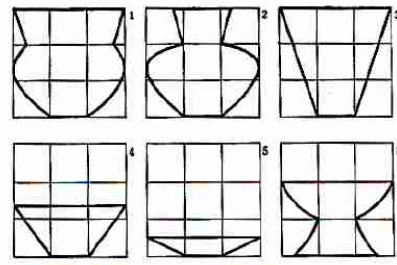
神戸市内出土のナイフ形石器



都賀遺跡出土の縄文土器(縄文早期)

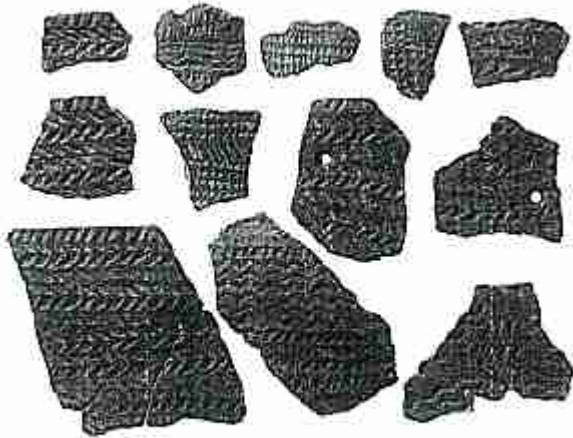


原野・穴遺跡出土の縄文土器(縄文後期)

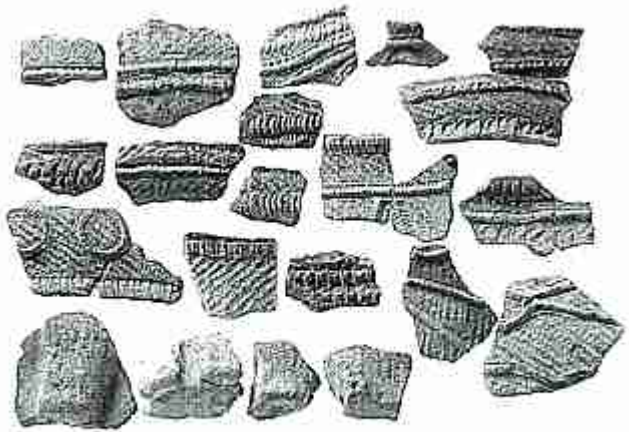


器形区分の基準 『縄文土器の知識Ⅱ 中・後・晩期』より転載

1. 壺(かめ)
2. 壺(つぼ)
3. 深鉢(ふかばち)
4. 浅鉢(あさばち)
5. 皿(さら)
6. 高杯(たかつき)



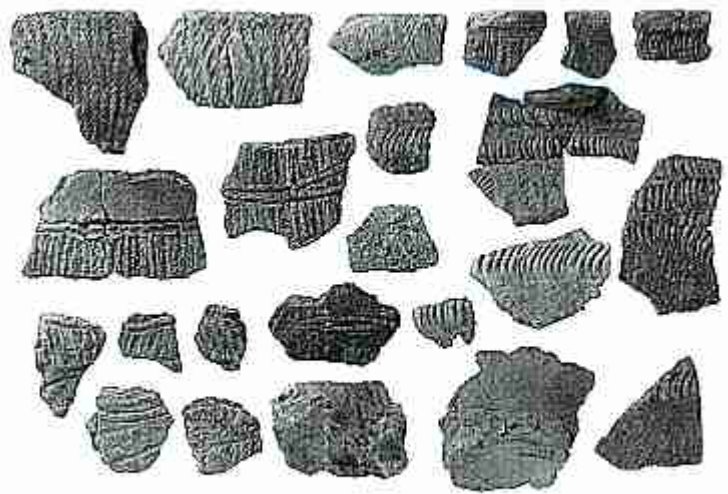
雲井遺跡出土の縄文土器(縄文早期)



大歳山遺跡出土の縄文土器(縄文前期)



垂水日向遺跡出土の縄文土器
(縄文中期～後期)



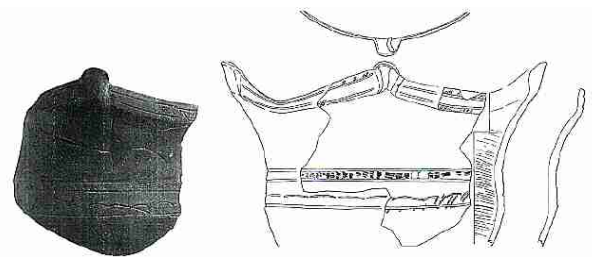
本庄町遺跡出土の縄文土器(縄文後期)



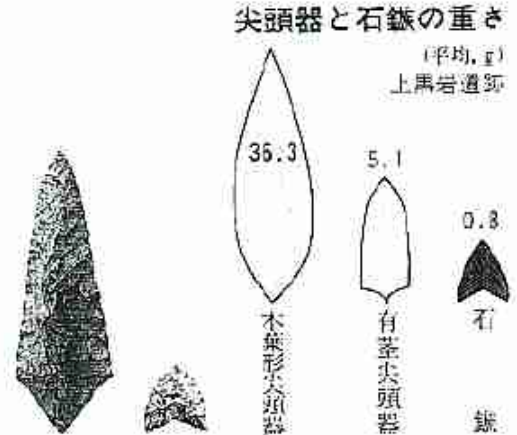
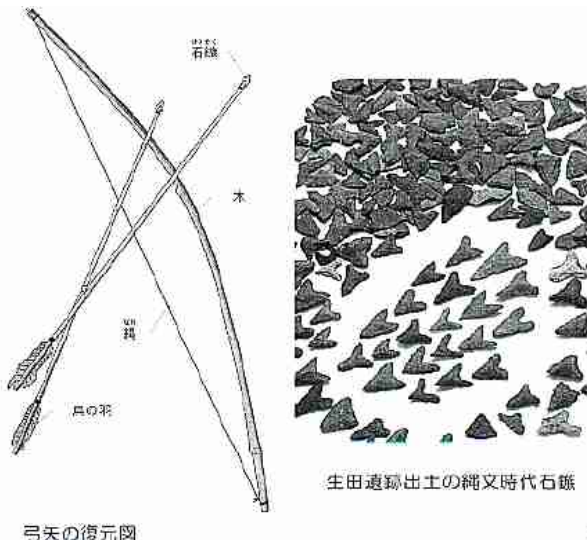
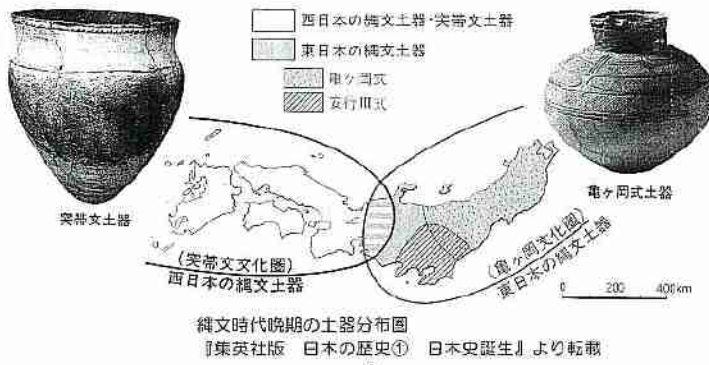
篠原遺跡出土の深鉢(縄文後期)



五番町遺跡出土の舟形鉢(縄文晩期)

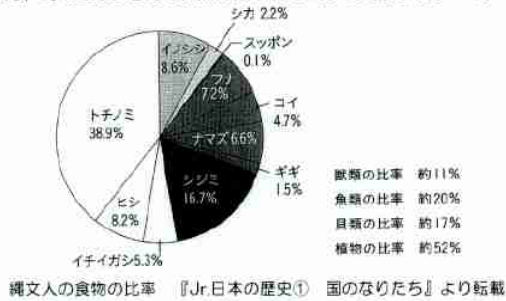


生田遺跡出土の深鉢(縄文後期)



⇒弥生時代には、2グラムを超える

・食物の内、約52%が植物で、魚介類が約37%で、動物は約11%に過ぎない。



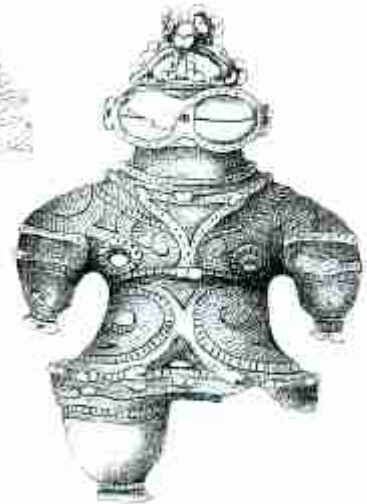
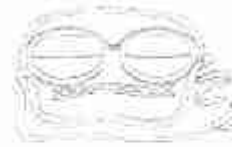
草創期				
早期				
前期				
中期				
後期				
晩期				

縄文時代の土偶変遷図
大阪府立弥生文化博物館『縄文の祈り・弥生の心』より抜粋

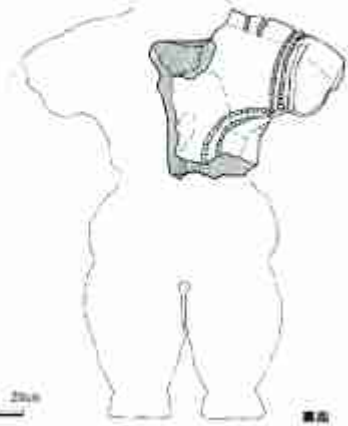
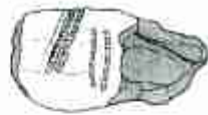
・篠原遺跡(磯区)から出土した遮光器土偶は、青森県・籠ヶ岡遺跡出土品と同じタイプで、現在のところ、遮光器土偶としては、最も西端の出土例である。



篠原遺跡から出土した遮光器土偶
(縄文晩期)



青森県籠ヶ岡遺跡出土の遮光器土偶
東北歴史資料館編集『東北の土偶』より抜粋



生田遺跡から出土した土偶(縄文後期)



鹿井遺跡から出土した土偶(縄文晩期)



高砂町地内遺跡から出土した土偶
(縄文晩期)



篠原遺跡から出土した石棒(縄文晩期)



淡河中村遺跡から出土した石棒(縄文中期)